

脳梗塞予防

脳梗塞は、脳血管が詰まることにより脳に血液が途絶え、その結果脳組織が障害される疾患です。通常急性に発症し、手足の麻痺や言語障害、認知機能障害など、非常に大きな後遺症を残します。通常、幸いにも症状が一過性に消失しても、さらには軽い後遺症のみで済んだ場合も、その後大きな発作を起こし重篤な症状をきたす確率が、一般人より非常に高くなります。

脳梗塞の急性機治療は、近年素晴らしい進歩を見せていますが、残念ながらこの治療が奏功しない場合があります。このため大きな後遺症を残さないためには、一度脳梗塞を起こされた方は、再発しないための予防治療が非常に大切になります。院長がこのお手伝いをさせていただきます。

脳梗塞の原因は、動脈硬化に伴う脳血栓症と、心房細動などによる脳塞栓症に大きく分けられます。

脳血栓症は、動脈硬化で動脈内が詰まってしまう疾患です。原因として高血圧、コレステロール、糖尿病が挙げられ、この評価・管理がまず大切になります。これは診察および採血・尿検査などで評価します。動脈硬化の評価は、診察・頸動脈超音波検査・頭部 MRI (連携医療機関に依頼)などを組み合わせて、適宜行います。

上記の動脈硬化の原因コントロールを行うと同時に、抗血小板薬（血液をさらさらにする薬）の投薬を検討します。この薬剤は出血傾向をきたすので、投薬にあたって適応・副作用含め、注意を払う必要があります。

脳塞栓症は、心房細動などの不整脈により心臓に血栓がつくられ、それが脳血管に飛んで詰まり、脳梗塞を起こす病態です。予防治療は抗血栓薬（血液をさらさらにする薬）の投与が大切になります。この治療には専門的知識が必要になりますが、院長はこの経験が豊富です。一方で、心臓そのものの専門的治療が必要な場合は循環器専門医へご紹介いたしますので、ご安心ください。